

平成24年度 第1回水と緑の森づくり会議

とき 平成24年5月29日(火) 13:30-16:00
場所 島根県職員会館 教養室1

○委嘱状の交付

○水と緑の森づくり会議

1 農林水産部次長あいさつ

2 議題

(1) 水と緑の森づくり事業の制度概要について

(2) みーもの森づくり事業の採択に係る審査について

(3) その他

水と緑の森づくり事業の概要

～みず・みどり みまもりはぐくむ 森が好き～

平成 24 年 5 月 29 日
水と緑の森づくり会議

I はじめに

島根県は、水資源のかん養、県土保全等全ての県民が等しく享受している安全で安心な生活に不可欠な公益的機能を有する森林が県民共有の財産であるとの認識に立ち、荒廃森林を再生させ水を育む緑豊かな森を次世代に引き継いでいく責務を果たすことを目的として、平成 17 年度に「島根県水と緑の森づくり税条例」を制定しました。

この税を財源として、荒廃した森林の再生を図るとともに、県民のアイデアと参加により、新たな森づくりの取り組みを行い、県民主体の森づくりが将来にわたり続いていくことを目指して「水と緑の森づくり事業」を展開しています。

II 島根県の森林の現状

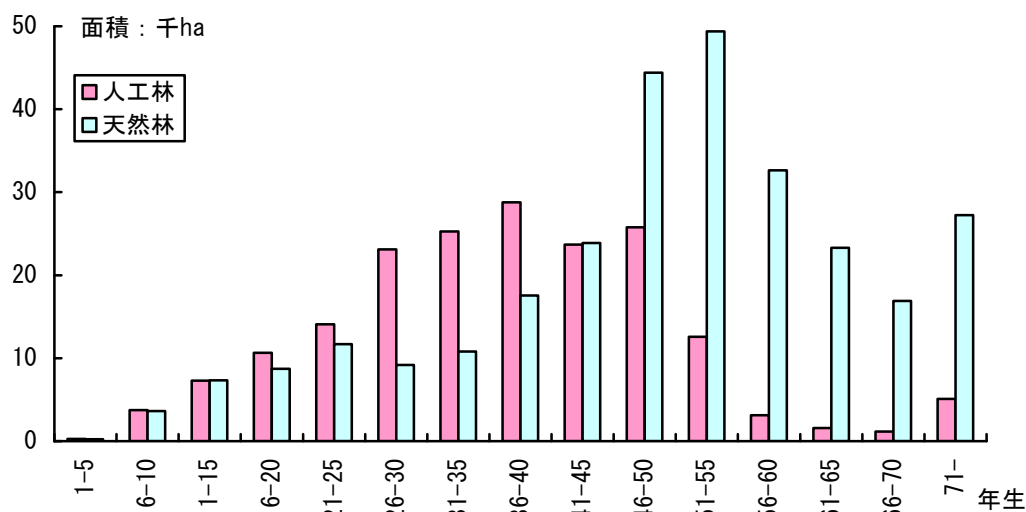
1 島根県の森林面積

島根県は、県土の総面積 67 万 ha のうちの 52 万 6 千 ha が森林であり、その割合（森林率）は、78%と全国第 3 位の緑豊かな森林県です。そのうち民有林は 49 万 3 千 ha あり、その 38%にあたる 18 万 6 千 ha は、人工林（スギ、ヒノキ、マツ）で、植栽後 36～40 年生をピークとした山形となっています。

島根県の森林面積

森 林			森林面積 (A)	森林以外	合計(B)	森林率 (A)/(B)
国有林	民有林					
3 万 3 千 ha	49 万 3 千		52 万 6 千	14 万 4 千	67 万	79%
	人工林	天然林				
	18 万 6 千	28 万 7 千				
		その他				
		2 万				

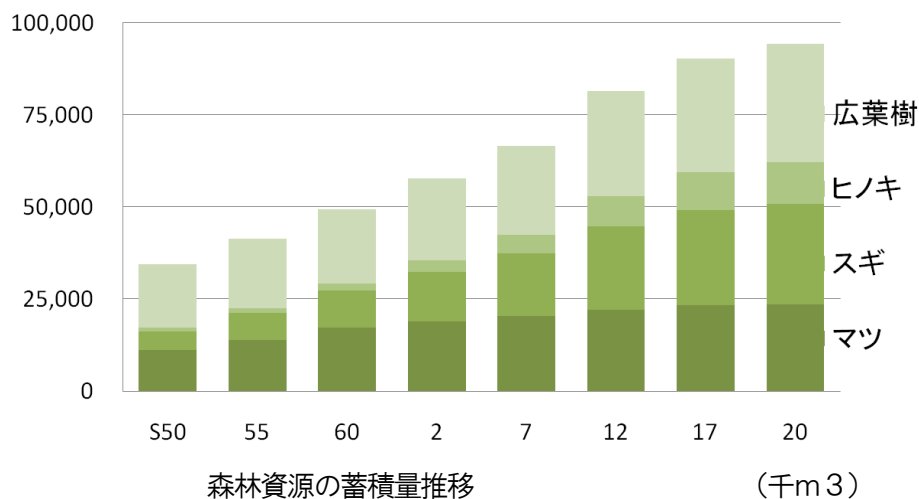
出典：森林資源関係資料（島根県森林整備課）



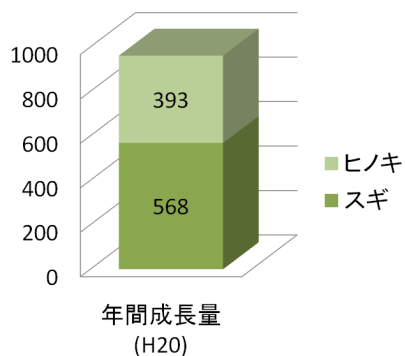
私有林森林資源構成

2 島根県の森林資源の推移（蓄積量）

島根県の森林資源の蓄積量はこの30年間でおよそ3倍に増加しています。特に人工林のスギ・ヒノキについては、30年前の6倍となっており、年間生長量は961千m³です。これは県内で新築される一般的な木造住宅の16,000戸分に相当します。



年間成長量計961千m³



スギ・ヒノキの人工林の年間蓄積は島根県内の年間新築住宅8年分！

3 島根県の森林機能の評価額

森林は、水資源のかん養や土砂流出防止など、私たちの暮らしに役立つ多くの機能を持っています。これらの機能を金額で評価すると、島根県の森林では、1年間で約1兆7千億円にもなります。

島根県の森林の機能別の評価額

機能の種類	島根県の評価額	備考
水源かん養機能	6,462億円	森林への土壌が、降水を貯留し河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水、渇水を防ぎ、さらにその過程で水質を浄化する役割

土砂流出防止機能	6, 8 8 8	森林の下層植生や落葉落枝が地表の浸食を抑制する役割
土砂崩壊防止機能	1, 6 5 0	森林が根系を張り巡らすことによって土砂の崩壊を防ぐ役割
保健休養機能	1 3 8	森林が人に安らぎを与え、余暇を過ごす場として果たしている役割
野生鳥獣保護機能	7 8 5	森林が果たしている野生鳥獣の生息の場としての役割
大気保全機能	1, 0 6 7	森林がその成長の過程で二酸化炭素を吸収し、酸素を供給している役割
計	1兆6, 9 9 0億円	

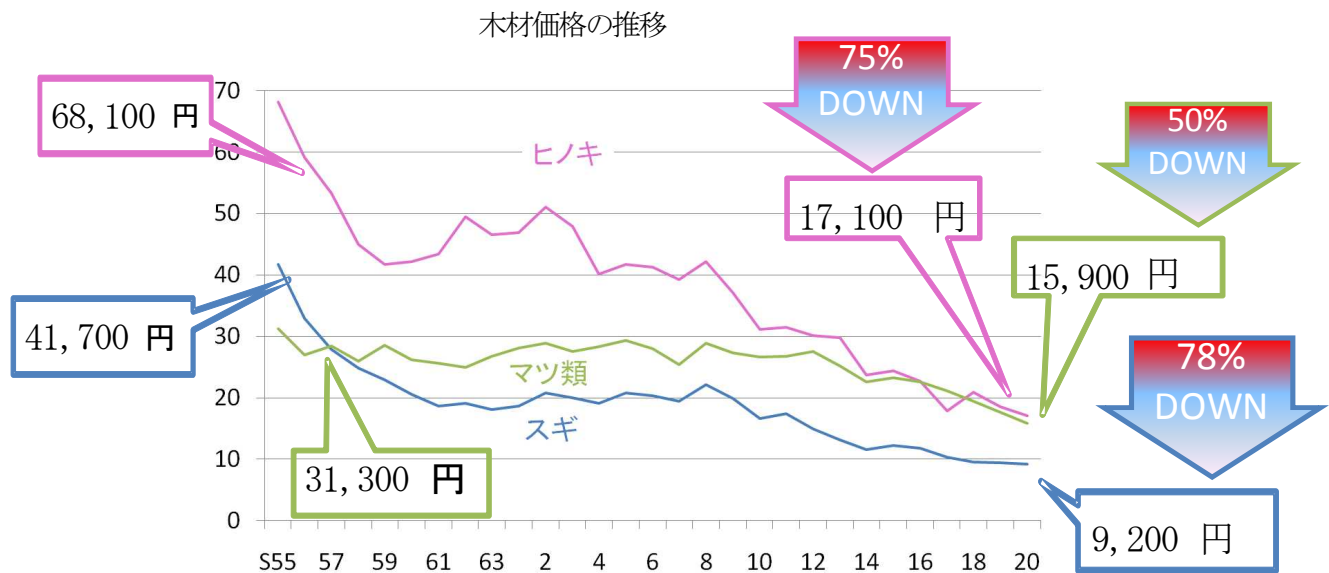
注：日本学術会議の全国の試算を基に、島根県で試算した
2000年の全国の評価額は、およそ75兆円

4 木材価格の推移

昭和20年～30年頃には戦後復興のため木材需要が急増しましたが、戦中戦後の森林の乱伐などによって木材供給が追いつかず、木材が不足し価格が高騰を続けていました。

このため国は拡大造林を推し進め、奥山までも植栽を行い、同時に外材の自由化に段階的に踏み切り、昭和39年には完全自由化となりました。

また、昭和50年代には為替の固定（1ドル＝360円）から変動相場制になり、円高が進みさらに安い外材が大量に輸入されることになりました。



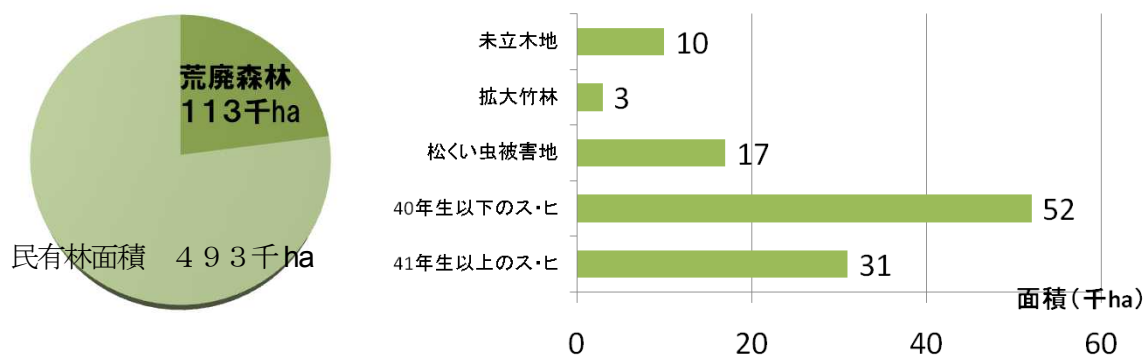
5 荒廃森林

(1) 荒廃森林の状況

島根県の民有林のうち、長期間にわたって間伐されていない森林や松くい虫被害などにあい荒廃している森林は、民有林全体の23%にあたる11万3千haあり、森林のもつ様々な公益的機能の低下が懸念されます。特に、間伐未実施林は、荒廃森林の73%を占めることから、緊急な対策が必要となっています。

荒廃森林の状況

島根県の民有林面積	49万3千ha
荒廃森林	11万3千ha
・ 間伐未実施林	8万3千
・ 松くい虫被害地など	3万0千



保育施業が放棄され、雨水により表土が流出している荒廃森林

Ⅲ 現行制度の概要と実績

1 制度の概要

水森税収は、「島根県水と緑の森づくり基金条例」により基金として積み立て、島根県が行う水森事業に充てています。

○課税方式・税率：県民税均等割の超過課税

個人の均等割：500円/年、法人の均等割：5%/年

○期 間：第1期対策 平成17年4月1日～平成22年3月31日（5年間）

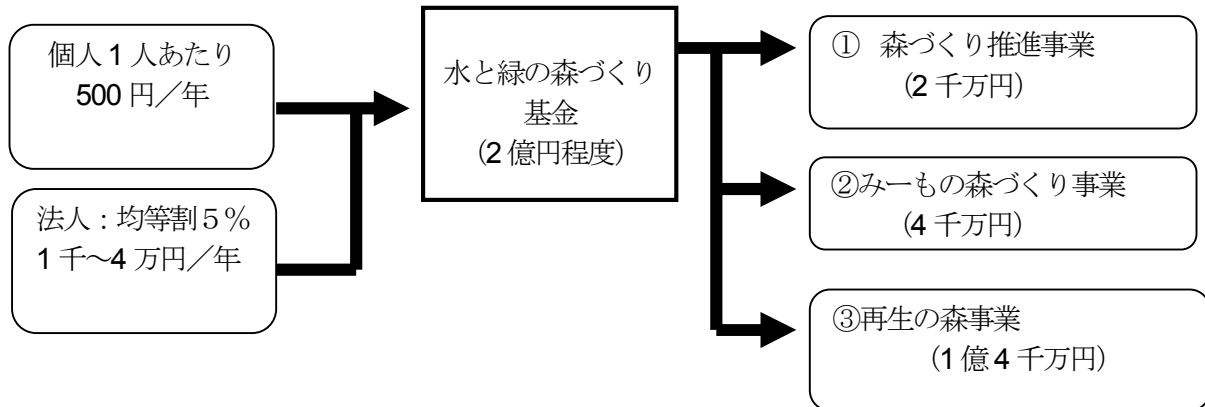
第2期対策 平成22年4月1日～平成27年3月31日（5年間）

○税収額：およそ2億円/年

水と緑の森づくり税収と水と緑の森づくり事業費の推移（百万円）

対策	第1期対策（実績）					第2期対策			合計	
	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24		
年度										
税収	151	210	210	209	209	209	190	200	1,588	
基金積立額	139	201	200	196	197	211	210	196	1,550	
事業費	①森づくり推進事業	13	10	9	10	10	17	18	20	107
	②みーもの森づくり事業	40	38	26	30	27	34	32	40	267
	③再生の森事業	24	35	227	274	160	147	145	140	1,152
	事業費計	77	83	262	314	197	198	196	200	1,527
年度末基金保留額	62	180	118	1	1	14	8	4		

水と緑の森づくり税の仕組み



2 再生の森事業

◇公益的機能を有し、10年以上間伐等の森林整備が行われていない高齢級（植栽後36年生以上）の森林において不要木の伐採などを行い、荒廃した森林を再生させる。

対象林	<ul style="list-style-type: none"> ○ 10年以上間伐未実施の36年生以上の人工林 ○ 人家・田畑等に侵入する竹の発生源の竹林 ○ 松くい虫被害にあい放置された森林
協定締結	森林所有者+県 委託実施の場合はこれに森林組合等（林業事業体など含む）を含めた3者協定とし森林組合等は協定期間中の見回り管理等を実施。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不要木の伐採：本数率30%以上の不要木の伐採 ○ 広葉樹植栽：不要木の伐採を行った跡地に必要に応じて広葉樹を植栽 ○ 侵入竹林伐採：人工林に侵入した竹林の伐採 ○ 保険加入：不要木の伐採を行った森林を対象に森林国営保険へ加入 ○ 管理道開設：森林の維持管理のための簡易な道路の開設 ○ 竹林伐採：人家や田畑等に侵入する竹の発生源竹林の伐採 ○ 抵抗性マツの植栽：松くい虫被害にあい放置された森林への抵抗性マツ植栽

◇実績

第1期対策（H17~21年度の5カ年）に3,562haの整備を行い、1期対策の目標であった3,500ha荒廃林の再生を行うことができました。

※今後2期対策（H22~26年度）3,500ha（700ha/年）の荒廃林の再生を行います。

県民再生の森事業の実績（ha）

	H17	18	19	20	21	第1期合計	22	23
不要木伐採	214	314	899	1,291	843	3,562	749	750
広葉樹植栽	5	24	47	31	23	133	1	1
侵入竹林伐採			14	17	9	41	2	0



県民再生の森事業により再生した森林（平成20年度 隠岐の島町）

モデル林設置状況（平成20年度）

圏域	市町村	箇所数	面積	圏域	市町村	箇所数	面積
松江	松江市	4	3.87	県央	大田市	2	2.15
	安来市	2	2.74		美郷町	1	1.50
	東出雲町	1	0.39		邑南町	1	1.56
	計	7	7.00		川本町	1	0.66
計	7	7.00	計		5	5.87	
雲南	雲南市	1	2.00	益田	益田市	3	3.01
	奥出雲町	1	1.00		吉賀町	1	0.20
	飯南町	1	2.00		津和野町	1	1.00
	計	3	5.00		計	5	4.21
出雲	出雲市	1	1.41	隠岐	隠岐の島町	1	0.31
	斐川町	1	0.65		海士町	1	0.20
	計	2	2.06		西ノ島町	1	0.10
浜田	浜田市	1	5.90		知夫村	1	0.67
	江津市	1	2.00		計	4	1.28
	計	2	7.90	県計	28	33.32	



不要木の伐採を行い、広葉樹を樹下植栽した森林（雲南市）

3 みーもの森づくり事業

◇県民のアイデアと参加による森づくりに助成。

- ・ 交付金額 50万円～200万円以内（継続事業については2万5千円～5万円）
- ・ 交付率 1/2～10/10の補助事業

◇実績

県民の自主的な森づくり活動を推進する「みーもの森づくり事業（森づくり・資源活用実践事業）」では、H17～H23年度の7カ年間に214件の取り組みを採択し、9万7千人を超える県民参加を得て、県民主体の森づくりを行うことができました。

みーもの森づくり事業の実績（件数）

年度	H17	H18	H19	H20	H21	第1期計	H22	H23
森を保全する取り組み	12	9	6	9	2	37	12	14
木を利用する取り組み	27	27	12	7	10	84	9	10
併用	3	11	10	7	8	39	2	7
計	42	47	28	23	20	160	23	31

みーもの森づくり事業の県民参加数の実績（人数）

採択年度 参加者数	17	18	19	20	21	22	23	計
17	5,168	—	—	—	—	—	—	5,168
18	4,814	8,277	—	—	—	—	—	13,091
19	5,831	3,076	4,409	—	—	—	—	13,316
20	7,604	2,197	2,572	2,658	—	—	—	15,031
21	6,119	2,493	3,079	1,092	2,102	—	—	14,885
22	—	13,441	1,800	1,199	1,338	3,066	—	20,844
23	—	—	3,323	2,169	877	419	7,309	14,255
計	29,536	29,484	11,860	4,949	3,440	3,066	7,309	97,092



森を保全する取り組み
(平成17年度 益田市)



木を利用する取り組み
(平成19年度 大田市)

4 森づくり推進事業

(1) 水と緑の森づくり会議

水を育む緑の豊かな森を次世代に引き継ぐため、森を保全し、賢明に利用していく「水と緑の森づくり」に県民のアイデアと参加を基本に、取り組むこととしています。

そのため、広く県民の意見を聞き、「水と緑の森づくり」に関する施策展開に資することを目的として、県民からの公募又は指名による委員（1期対策10名/年、2期対策7名/年）で構成する「水と緑の森づくり会議」を開催しています。

<役割>

水森会議では、次に掲げる事項について討議します。

- 「水と緑の森づくり」において、県民のアイデアを活かすこと。
- 「水と緑の森づくり」において、県民の参加を促進すること。
- 「水と緑の森づくり」が県内各地で効果的に実施されること。
- その他、「水と緑の森づくり」の着実な推進に関すること。

これまで（平成17-23年度）に、のべ64人の委員から水と緑の森づくりについて意見をいただき、事業に反映させてきました。

※ 小学校校長、森林経営、ボランティアの各分野から1名ずつ指名、4名公募。

水森委員	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
女性	4	5	5	5	5	3	5	3
男性	6	5	5	5	5	4	2	4
合計	10	10	10	10	10	7	7	7



水と緑の森づくり会議

この会議では、イメージキャラクター「みーもくん」やキャッチコピー「みず・みどり みまもりはぐくむ 森が好き」の決定（H17）、森への思いの募集（H18）、水と緑の森づくり実践表彰（H19）、第2期対策イメージキャラクター「みーなちゃん」の決定、みーもの森づくり事業（森づくり・資源活用実践事業）（H17～H23）の審査等を行いました。



第1期対策
イメージキャラクター
「みーもくん」



第2期対策
イメージキャラクター
「みーなちゃん」

(2) 季刊誌「みーも通信」の発行

県民に水と緑の森づくり事業への理解を深めていただくため、平成17年7月から「みーも通信」を発刊しています。以後毎年4回（春・夏・秋・冬）発行し、各地域での取り組み状況等を掲載しています。

みーも通信は、市町村（公民館含む）、コンビニ、JA、銀行、大規模商業施設、林業関係団体及び県の機関に、各号2万部程度発行し、配布しています。

※平成22年度全国林業関係広報コンクールにて優秀賞を受賞しました。

(3) 1,000人アンケート調査

県民の森林に対する意識や水と緑の森づくりの意識を調査するため、平成18年度から県内7地域で県民1000人を対象としたアンケート調査を実施しました。

※H22年度からは島根大学と協働で郵送による無作為調査方法を行っています。



県民1000人アンケート調査
(平成21年度調査 出雲市)

(4) 島根県森林インストラクターの養成

平成8年度から、自然観察や森林づくりなどといった体験活動をとおして広く県民の皆様に、森林・林業の正しい知識や魅力を伝える活動を行うことを目的に「島根県森林インストラクター」を養成しています。

これまでに146名のインストラクターが誕生し、学校での総合学習の時間や、公民館活動、アウトドアイベントなどの体験活動の講師として活躍しています。

島根県森林インストラクター認定状況

年 度	H8	H9	H10	H15	H16	H17	H22	合計
認定数	15	16	14	25	23	16	37	146

(平成24年度も養成講座を開催予定)

(5) みーもスクールの開催 (2期対策～)

子どもの頃から森とふれあうことをととして、森の大切さ、尊さを理解すると共に郷土を愛するところを育むことを目的に、県下7校の小・中学校で開催。これまでの森林教室とは異なり、1年をとおして森の四季を感じながらの体験学習をおこないます。

※H24年度からは出雲・浜田を含めた7地域で実施します。

管内	平成23年度みーもスクール実施学校
松江	松江市立母衣小学校 6年生
雲南	雲南市立西小学校 4年生
県央	大田市立五十猛小学校 全校児童 大森小学校 全校児童
益田	津和野町立左鏡小学校 全校児童
隠岐	隠岐の島町立都万中学校 全校生徒 五箇小学校 5年生



大田市五十猛小学校

H24 水と緑の森づくり事業

林業課

予 算 [水と緑の森づくり基金積立金]	200,192千円
(内訳) 水と緑の森づくり税 (H24 税込見込額)	200,132千円
ふるさと島根寄付金 (旧ふるさと納税)	60千円
《事業》	
(1) 県民参加の森づくり	60,012千円

■森づくり推進事業 20,000千円

①森づくり情報交流

- ・ 水と緑の森づくり会議の開催
- ・ 水と緑の森づくり普及啓発
- ・ 情報誌発行
- ・ 県民アンケート調査 など

②森づくりサポート体制の整備

- ・ 森づくりサポートセンター
- ・ みーもスクール (拡充)
- ・ 島根県森林インストラクター養成
＜隔年開催 H22、H24、H26＞

■みーもの森づくり事業 40,012千円

採択予定時期 6月

県民自らが企画・立案した取り組みを支援



取 組	森を保全する取組	森を利用する取組
内 容	○森林内の植林、下草刈り、森林公園や自然公園周辺の整備○森林教室、樹木実習など ＜重要取組＞ 荒廃竹林の整備、抵抗性松植栽	○公共性が高く、身近なところで県産材及び木質バイオマスを利用
実施主体	NPO, 市町村、自治会、森林組合、林業事業体、企業その他団体	
交 付 率	1/2 以内 ただし、個人所有とならない資材の購入や自身での実施が困難な作業の委託、県産材購入代は10/10以内	
交付金上下限額	500～2,000 千円以内 ただし、過去の事業の継続実施 (下刈や木工教室など) は、上限50千円の申請も可能	

(2) 緑豊かな森の再生 140,180千円

■再生の森事業 計画面積 730ha

荒廃した森林を整備し再生させることで、水を育む緑豊かな森を次世代に引き継ぐ

対 象 林	<ul style="list-style-type: none"> ・ 10年以上間伐未実施の36年生以上の人工林 ・ 人家・田畑等に侵入する竹の発生源の竹林 ・ 松くい虫被害にあい放置された森林
協 定 締 結	森林所有者+県 委託実施の場合はこれに森林組合等 (林業事業体など含む) を含めた3者協定とし森林組合等は協定期間中の見回り管理等を実施。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不要木の伐採：本数率30%以上の不要木の伐採 ・ 広葉樹植栽：不要木の伐採を行った跡地に必要に応じて広葉樹を植栽 ・ 侵入竹林伐採：人工林に侵入した竹林の伐採 ・ 保 険 加 入：不要木の伐採を行った森林を対象に森林国営保険へ加入 ・ 管 理 道 開 設：森林の維持管理のための簡易な道路の開設 ・ 竹 林 伐 採：人家や田畑等に侵入する竹の発生源竹林の伐採 ・ 抵抗性マツの植栽：松くい虫被害にあい放置された森林への抵抗性マツ植栽

森づくり推進事業

[平成24年度予算額 20,000千円]

I 事業の目的

■県民に対する水森税の周知

「水と緑の森づくり税を知っている」

認知度の向上：現在 9% → H26年度 50%

■県民に対する普及啓発

「森林への興味・関心がとてもある」

意識の醸成：現在 24% → H26年度 50%



II 事業の内容

1 森づくり情報交流

[平成24年度予算額 8,835千円]

(1) 水と緑の森づくり会議の開催

- 水森事業を深く知ってもらい、県民目線での意見を出し合ってもらうために、年3回の会議のほか、随時情報を提供していく。

室内会議2回（実践事業の報告、検討）

現地会議1回（実践事業の検証など）



(2) 森づくり情報発信

① 森づくり情報発信業務委託

- 水森事業の認知度を向上させるため、県で作成したアウトラインをもとに広告代理店等に対しプロポーザル（企画競争）をかけ、最も効果的な広報計画を提案した事業者に対して委託を行う。

（委託する広報業務）

◇情報誌発行（みーも通信） ◇年間広報（新聞・雑誌等）

◇県内各イベント等へPR出展 ◇ノベルティの作成

② 県民アンケート調査

- 研究機関へ委託し、県民の森づくりに対する意識調査を行う



2 森づくりサポート体制の整備

[平成24年度予算額11,165千円]

(1) みーもスクール

- 学校が行う森林教育活動をNPO団体等と連携し、年間通じて森林教育を行う（7校→12校：5校増）

(2) ふるさとの森講座開催

- 県民の森及びふるさと森林公園をフィールドに、森づくりに関心のある人を対象とした森林教室やトレッキング教室を開催する

(3) 森の誕生日 *4/29日開催

- ふるさと森林公園で、松江市や各ボランティア団体と連携して木工教室等を開催する

(4) しまね森林活動サポートセンター

- 森づくり活動への参加を県民に促し、サポーターとのマッチングを行うとともに、県で認定した森林インストラクター等、サポーターの情報を周知し、必要に応じてサポーターを講師として派遣する

(5) 島根県森林インストラクター養成<隔年開催H22、H24、H26>

- 広く県民に対し、森林・林業の正しい知識を伝え、森林に関する理解を促進するために、知識や技術を伝える森林インストラクターを養成する。

森づくり推進事業 普及啓発事業(H24)について

1. 水と緑の森づくり情報発信業務の民間委託

水森事業の認知度向上を目指し、県で作成した広報アウトラインを基に、民間企業体へコンペ方式（企画競争）による効率的な情報発信の企画提案を募集し、水と緑の森づくり SP プロジェクトと委託契約を締結します。

【企画提案：方針】

昨年度、水森事業の認知度が低い若年層と女性層を主要ターゲットとして、森林はもっと「身近な存在」であることを「関心を持つ切り口」で伝え、事業の周知につながるよう業務を展開した。今年度も、引き続き女性層及び若年層、特に小学生・幼児などにも興味を持ちやすい内容で、自然に楽しんで事業を知ってもらうことを目指して、情報発信を行う。

【企画提案：情報発信計画】

○ 季刊誌「みーも通信」

A5 版 8 ページ、特集ページ、読者アンケート、塗り絵など。
コンビニ等にスタンド 50カ所設置。22,000 部（毎号）

○ 季刊誌「みーも通信」増刊号

A5 版 8 ページ、森づくり活動の紹介などわかりやすく伝える
県内各小学校へ、26,000 部の発行

○ 普及イベントへの実施

- ① 島根県各地で開催されているイベントや産業祭などに出展し、特に小学生やその家族が気軽に参加できて楽しく学べるように、「みーもくん」や「みーなちゃん」が出張広報活動を展開する。（5回以上）トートバッグ（みーもくんイラスト入り）を作成し、配布する。
- ② みーもサマースクールの開催
- ③ 保育園出張PR業務

○ タウン情報誌「Lazuda ラズダ」、フリーペーパー「メリット」への掲載

女性・若年層に事業周知。

○ ツイッター・フェイスブックの実施（通年）

みーもくんが事業紹介、イベント告知などを週1回程度発言。



みーもスクール

1 目的

水と緑の森づくりを進めるにあたり、県民から意見をうかがったところ、子供たちに森林教育を行い、森林の大切さを理解させるべきであると多くの声が寄せられました。

これまで森林教育は、学校からの依頼等によるスポットでの実施にとどまり、地域の森林環境や川や田といった自然環境を踏まえた継続的な内容ができていませんでした。

このため、子供の頃から森と触れ合うことを通して、地域の森を中心とした自然環境の大切さを理解させるとともに、郷土を愛する心を育むため、平成22年度から「みーもスクール」を実施しています。

2 平成23年度実績

実施校・実施内容

地域	対象学校	参加人数	【実施団体】 主な実施内容
東部地域	松江市立母衣小学校 雲南市立西小学校	83人 33人	【NPO 法人もりふれ倶楽部】 松江市中心部の子供たちに松江市の水源である奥出雲地域での間伐作業などを通して、森の大切さを教える。 <ul style="list-style-type: none"> ・木工 ・樹木学習 ・原木シイタケ生産現場見学 ・間伐体験
	県央地域 大田市立五十猛小学校 大森小学校	46人 18人	【NPO 法人緑と水の連絡会議】 石見銀山周辺で繁茂する竹の整備や三瓶山の自然を勉強し、身近な森と人との関わりを教える。 <ul style="list-style-type: none"> ・三瓶山自然林観察 ・間伐現場見学 ・自然観察
 	西部地域 津和野町立左鐙小学校	16人	【NPO 法人アンダンテ21】 学校裏の林に入り、森の健康診断をおこない、森林を身近に感じる気持ちをはぐくむ。地域の宝である高津川を守る取り組みは森林を適切な状態にしておくことが重要であることを教える。 <ul style="list-style-type: none"> ・森林観察 ・講義（水源涵養、森の役割）
 			

<p>隠岐地域</p>	<p>隠岐の島町立都万中学校 五箇小学校</p>	<p>33人 21人</p>	<p>【風待ち海道倶楽部】 隠岐の不思議な生態系と隠岐ジオパークについて教える。 ・間伐、枝打ち体験</p>
<p>計</p>		<p>250人</p>	

しまね森林活動サポートセンター

～森林技術ボランティア活動サポート制度～

1. 目的

県民共有の財産である森林を、県民全体で支えていくために、行政と企業・団体・個人等の専門的な技術者が協働して、森づくりへの県民参加を促進する。

- 森づくり活動への参加を希望する県民に対し、その機会を提供
(「森づくり活動には興味があるがその機会がない」49%：水森アンケート結果)
- 島根県森林インストラクター146名の積極的活用
- 森林専門技術会社の社会貢献活動CSRの推進
- H19～H22 林業課にて「森づくりサポートセンター」を設置→マッチング0件

2. 概要

サポートセンターの運営管理を外部委託し、森林技術ボランティア活動サポート制度の運用や、コンテンツの拡充、問い合わせに対するサービスの向上・利用者の拡大、サポーターのスキルアップなどを実施する。

- 森林ボランティア指導者、森づくり団体活動等の情報収集、ホームページ更新
- 支援を受けたい人(ユーザー)と技術者(サポーター)のマッチング・派遣
- サポーターのスキルアップ、サポートセンターのPR など

